

# 令和元年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70

※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画				自己評価					学校関係者評価				
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B) アンケートは1月 統計は2月	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント
学習指導	学力の向上	望ましい学習習慣の形成	教務	a. 授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 b. 学習規律の確立を目指した授業づくり	①わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒②)	88%	98%	B	(1)2項目ともに昨年度の数値を上回ったが、目標値までは届かなかった。さまざまな個性を持つ生徒に対して、授業スタイルや指導方法などを工夫しながら対応していくことをさらに進めていきたい。	B	○学校を開いた公開授業は、画期的な取り組みとして高く評価したい。今後さらに充実・発展するように努めてほしい。 ○アクティブラーニングの実現に向けた教員の意識の向上が期待される。まずは授業実践に取り組めない原因を探り、各教科ごとに授業展開事例等を提示するなど、取り組みやすい環境を整備していくことが大切である。 ○アクティブラーニング導入は社会的に試行錯誤がある中で、先生方が頑張っておられるようで、評価できると考える。 ○来年度は是非アクティブラーニングの視点での授業公開をお願いしたい。急激な社会情勢の変化に対応できるような生徒を育成するために授業改善に努めてほしい。 ○習熟度合いの低い生徒に対し、始業前や放課後に熱心に補習を行い、保護者からも大変感謝されている教員がいると聞く。このような教員が一人でも多くなることを期待する。 ○他の人よりも理解の遅い生徒への対応はもちろんだが、理解の速い生徒が学びについて満足感を得られることも同様に大事なので、工夫して取り組んでほしい。 ○家庭学習の習慣化に引き続き努力していただきたい。 ○家庭学習を習慣化できない生徒への対応、課題の出し方等の改善が必要である。 ○特にICTについては、日常の学校生活の中でも(教員・生徒間・教員間の連絡等)、できる限り取り入れるなど、普段から慣れさせておくことが必要である。
				a. 適切な課題による家庭学習の習慣化	②先生は、生徒の授業態度に対してけじめのある指導をしている。	95%	アンケート(生徒⑨)	93%	98%	B			
				③わたしは、授業で出される課題や、検定試験に向けた課題に、家庭できちんと取り組んでいる。	80%	アンケート(生徒③)	82%	103%	A				
	④生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫した。	80%		アンケート(教員①)	76%	95%	B	(2)適切な質・量の課題を与えること、それにきちんと取り組ませることに向けた指導を、妥協なく行うことは引き続き徹底していきたい。それとともに、生徒の自主的な学習を引き出すような働きかけも増やしていく必要がある。					
	a. 研究授業、公開授業等の実施 b. 生徒による授業評価の実施 c. ICT環境の活用	⑤先生は、わかりやすい授業や、生徒自身が考える授業づくりに努めている。		90%	アンケート(生徒⑩)	89%	99%	B	(3)「先生は、分かりやすい授業、生徒自身が考える授業づくりに努めている」という質問項目に対しては、昨年度よりも生徒評価は向上した。「主体的・対話的で深い学び」づくりに対する意欲や知識が教職員間で高まってきたこと、ICT環境が整備されて2年目となり、活用が広まってきたことなどが原因として考えられる。一方で、教員の自己評価は依然として低く、公開授業のPRの強化などと合わせて、質問項目のあり方の改善も検討したい。				
	⑥授業アンケート結果に基づき授業改善に取り組んだ。	90%		アンケート(教員②)	93%	103%	A						
⑦アクティブラーニングの導入や、ICT活用を意識した授業実践に取り組んだ。	90%	アンケート(教員④)	51%	57%	C								
教育環境の整備	生徒の学習を支援する体制の充実	a. 授業時間の確保 b. 個別指導、補充授業の実施	⑧曜日変更などによる授業時数の確保や、補習計画立案などの個に応じた指導は適切であった。	90%	アンケート(教員⑤)	82%	91%	B	(4)長期休業中の遅進者補習は、きちんとした受講を生徒に促すよう、受講までの手続きを整備した。生徒や保護者から日常的な個別対応の希望もあり、教職員全体でその意識を高めたい。				
特色ある学校	商業教育の充実	資格取得の支援	a. 検定補習、合宿の実施 b. 検定ロードマップの作成	⑨全商検定1級3種目以上取得率	40%	統計資料	41%	103%	A	(5)3年生の全商検定1級3種目以上の取得者は83名で、10年ぶりに80名を超えた。中でも1級7種目取得者4名、6種目取得者3名、5種目取得者が13名と、非常に多く生徒が複数の1級を取得した。また、応用情報技術者をはじめ難関試験にも合格者がでた。	A	○「松商だんだんフェスタ」は、地域に認知されたとても素晴らしい取り組みとなってきているが、一人でも多くの県民に来ていただけるよう一層の奮起を期待する。 ○地元企業と協働して製品開発などを行ない、「松商だんだんフェスタ」で販売する流れは非常にいいと思う。さらに発展・深化させていってほしい。 ○フェスタ前のチャレンジショップは教員にとって負担ではないか。これまでのやり方にとらわれず、負担を減らす方策も考えてほしい。 ○各種資格取得者が大勢出たことは素晴らしい。さらなる努力を期待する。努力した生徒と、教員の指導のたまものである。	
		体験的学習の充実	a. ビジネスマナー指導の充実 b. 「松商だんだんフェスタ」の充実	⑩ビジネスマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑧)	83%	92%	B	(6)「挨拶」の本来の目的が充分生徒に伝わっていない。どんな場面でも常に変わらない「挨拶」ができるように今後も指導を続けたい。			
	⑪「松商だんだんフェスタ」は有意義である。	90%	アンケート(生徒⑥)	92%	102%	A	また、フェスタには生徒・保護者の皆様からある程度の評価をいただいている。フェスタ本来の目的を見失うことなく、時代に合わせた変化も考えていきたい。						
生徒指導	基本的生活習慣の確立	望ましい生活習慣の育成	生徒	a. 身だしなみ指導の計画的実施 b. 全教職員と生徒会による登校指導と適切な声がけ c. 校外でのマナー(通学マナー)指導の充実 d. 校外での挨拶の励行	⑫毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	統計資料	99.2%	100.2%	A	(7)生徒部教員による朝の登校指導(あいさつ、登校マナー)で、生徒の様子を観察しながら継続的に声がけを行った。生徒玄関前では、生徒会と教職員(当番制)によるあいさつ運動を行ったが、特に寒くなってからと雨天時に遅刻者が増えた。 振る舞いや身だしなみについても、計画的に身だしなみ指導を行い、成果は感じられる。一部気になる生徒もいたが、継続的に声がけを行った結果、きちんとできるようになってきた。引き続き生徒部と学年部で連携しながら全教員で取り組んでいく。	A	○街で見る松商生は身だしなみに品格があり、全体的に落ち着いている。「あいさつ運動」の輪を広げ、学校がリーダーシップを取り地域全体が気持ちの良い挨拶のできる明るい町になるよう努めてほしい。 ○声がけはお互いの人間関係を保つために必要であり、継続していくことが大切である。 ○受診結果報告書の提出率が昨年度より向上したのは、受診指導を工夫された結果であり、良いことである。 ○ふさわしい振る舞い方には「形」も「気持ち」もどちらも大切である。根気強く指導する必要がある。 ○あいさつ、非遅刻、身だしなみは、社会生活でもとても重要であり、高く評価できる。 ○学校外のマナーが課題である。自転車の乗り方など、学校外でも実践できてこそ真の力である。松商生であることを自覚し、地域に意識を向ければ自ずと行動が変わってくるのではないかと。 ○挨拶、マナーなどについて引き続き指導に取り組んでもらいたい。
				⑬非遅刻率	99%	統計資料	99.6%	100.6%	A				
	⑭わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	95%		アンケート(生徒④)	99%	104%	A						
	a. 健康管理に関する適切な指導 b. 教育相談、生徒支援の委員会(さわやか委員会等)の充実 c. 清掃指導の徹底	⑮各種検診結果に基づく再検査該当者のうち、受診した生徒の割合(受診結果報告書提出率)		80%	統計資料	100%	125%	A	(8)再検査該当者には、医療機関を受診し、医師の証明を提出してもらっている。1学期に提出のなかった生徒に対しては、ロードレース大会前の健康調査時に受診を指導し、全員提出した。				
健康管理・美化活動の推進	保健	⑯わたしは、清掃活動に積極的に取り組んでいる。	95%	アンケート(生徒⑥)	95%	100%	A	(9)清掃に対する取り組みはほぼ満足できる状況である。今年度は男女全てのトイレに洋式便座が設置され、掃除の手順を確認するなど具体的な指導も行った。今後も校内美化を推進していきたい。					

# 令和元年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値) ※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画						自己評価					学校関係者評価		
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント
								アンケートは1月統計は2月					
生徒指導	人権・同和教育の推進	人権・同和教育の体制作り	図書人権教育・生徒	a. 人権・同和教育に関するLHRの指導計画立案 b. 実践をともなう道徳教育の推進 c. 生徒理解と信頼関係の確立 d. 人権・同和教育に関する教職員研修の充実	①学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒⑧)	90%	100%	A	(10)教職員に悩みを相談できる雰囲気があると答えた生徒が少ない。生徒から気軽に相談できる雰囲気を作るため、日頃から教職員から生徒へ声をかけたり、生徒の変化をよく観察する等、信頼できる関係を築く努力が必要である。また、教職員にとって「当たり前」でも、生徒にとっては「頑張って取り組んだ結果」であることも少なくない。生徒自身が自尊感情を高められるよう生徒理解に努めていく。(生徒部)	B	○全教育活動を通して、生徒一人一人を多面的、総合的に理解していくことが大切である。生徒の良さを見いだそうとする姿勢のもと、共感的理解を深め、生徒との信頼関係を一層構築していくことが強く望まれる。 ○日頃の声かけや教員間の情報共有などコミュニケーション等意識して指導をお願いしたい。 ○教員の気づきの感度には差があるので、見過ごしが無いよう、複数の人が見て、思ったことを相談できる職場の雰囲気作りが重要である。
				②学校には、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒⑩)	65%	93%	B				
				③人権同和教育に関する教職員研修は有益であった。	90%	アンケート(教員⑨)	87%	97%	B				
進路指導	進路希望の実現	進路の実現のための支援体制作り	進路指導	a. 一人ひとりに応じた進路指導(進学補習・小論指導・面接指導等) b. 生徒および保護者への進路情報(進路の手引・進路だより・進路行事等)の提供と活用 c. ハローワーク、松江市との連携による求人開拓 d. 企業訪問等によるミスマッチの回避	②在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。	100%	統計資料	100%	100%	A	(11)就職は一般事務職を中心に今年も100%の内定となった。進学は志望校に積極的に挑戦し、新たにいくつかの難関校に合格した反面、定員定数厳守のあおりを受け、例年になく苦戦を強いられるケースもあった。次年度に向けては、とくに進学は早期から対策を練っていききたい。	A	○適切な進路指導に努めており高く評価したい。今後、より充実した進路指導を進めていくためには、学科やカリキュラムなど、現在の状況を踏まえた上での対応策を時間をかけて議論していく必要がある。特に、社会が商業高校にどのようなものを求めているかをしっかりと把握しておく必要がある。 ○地元企業説明会は大変良いことである。また、卒業生の協力は生徒にとって身近で説得力がある。 ○生徒は地元企業についてどれだけ知っているか、実態調査をしてみてもどうか。商工会議所等と連携し、地元企業についてよりよく知るための調べ学習やアンケート調査をしてみてもどうか。 ○保護者へも進路に関する情報提供を行なうと共に、学資支援制度等を学ぶ場も積極的に提供してほしい。
				②在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。	100%	統計資料	98%	98%	B				
		a. 地元企業説明会の実施 b. 進路座談会、進路講演会等の実施 c. 進路の手引の活用 d. 企業訪問の実施	②学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑩)	91%	101%	A	(12)地元企業説明会は大きなプログラムであったが、企業側の評価も高く、成功裏に終わることができた。進路座談会、進路講演会、卒業生の力を借りての実施であり、生徒にとっては他の外部講師比べ、講演内容も身近に感じることができ、今後も継続していききたい。				
特別活動	豊かな心の育成と情操の涵養	部活動の活性化	生徒	a. 各自の目標達成への支援 b. 総体パワーアップ週間の実施	②部活動加入状況	90%	統計資料	92%	102%	A	(13)運動部・文化部ともに部活動は盛んであり、部活動への強い参加意欲をもって入学する生徒も多い。部活動を通じて豊かな人間形成を図りながら、将来の進路に向けて自己実現が図れるよう支援していく。また、学習活動や資格取得に取り組む時間の確保等、進路保障も考えながら取り組んでいく必要がある。	B	○部活動の活性化は学校全体の活力に繋がる。教員の好指導により大きな成果を上げている。さらに一層の活躍を期待する。 ○部活動に休養日を設けることの是非は様々であるが、部活動顧問の日常や健康のことも心配している。校外の指導者の力も借りたい。 ○部活動における活動は社会に出てからも大いに役立つものであり、全員の生徒に何らかの部に属し、活動してもらいたい。 ○これからは、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携し実現させていくことが強く望まれる。多くの生徒が校外に出て、ボランティア活動や地域の人々との幅広い交流など、社会貢献や社会参加に関する活動を積極的に行っていくことが大切である。 ○命を守る行動について一層の指導の充実を努めてほしい。 ○図書館で様々な取り組みにチャレンジされ、生徒と図書館の距離が少しでも近くなるよう努めてほしい。
				読書習慣の育成	図書人権教育	a. 読書センターとしての役割を果たす b. 学習・情報センターとしての役割を果たす c. 読書活動の推進	②図書館には読みたい本や調べ物に適した本が揃っている。	70%	アンケート(生徒⑩)	60%	86%		
	他人を思いやる心、感動する心の育成	生徒会活動の活性化	生徒	a. 全校生徒、教職員が一体となった学校(生徒会)行事への取組み b. 各種委員会活動など生徒主体の活動の企画・実施	②わたしは、クラスの委員や係、または生徒会の活動に積極的に取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒⑤)	76%	109%	A	(15)球技大会、瑞木祭等生徒が主体となって、教職員とともに各行事を成功させた。各種委員会は、取り組み状況に差が生じた面もあった。委員会開催時に行事内容の立案と計画を検討する必要がある。生徒会執行部から各種委員会へのより積極的な働きかけが必要と感じている。		
信頼される学校	開かれた学校づくりの推進	保護者との連携の推進	総務	a. 保護者面談の実施 b. 保護者への文書による情報提供の充実 c. PTA活動の充実・推進 d. ホームページの定期的更新、メールマガジンの発行 e. PTA会報の発行	⑦学校は、文書・ホームページ・メールマガジン等を通じて適切に情報を提供している。	90%	アンケート(保護者④)	89%	99%	B	(16)学校ホームページは、学校行事があれば最短で1時間後、遅くとも翌日までに更新し、迅速な情報提供に努めた。PTA会報は毎学期発行し、PTAの活動や学校の様子を詳細に伝えた。担任による生徒・保護者面談等も今後一層丁寧に実施し、学校と家庭の連携を推進していく。	B	○避難・防災訓練の他に、不審者対応訓練について、マニュアルに基づいたシミュレーション訓練も3年に1回程度は実施して欲しい。 ○スマホを使う時間が長く、家庭学習等に支障を来していることが懸念される。更に、SNSによる事件事故が多発している中で、その指導の充実を努めていく必要がある。 ○高校生には地域の活動に積極的に参加してもらいたい。 ○ボランティアに参加する意義が良くわかっていないため、参加人数が少ないように感じる。経験者の話を聞く機会があっても良いと思う。 ○ボランティア活動に参加しやすい体制作りを検討してほしい。 ○ボランティア活動が、部活動等の単位で頻繁に行なわれていくことを望む。学校内外の諸課題を自分たちの出来るところから少しずつ解決していく力を、学校だけでなく地元企業や地域で身につけていくことが、生徒の成長につながり、延いては信頼される学校につながっていく。 ○情報モラル教育は時代の変化が激しく、毎年の研修等が必要だと考える。 ○ホームページ等でしっかり情報開示してあり、信頼できる。
				地域との連携の推進	生徒	a. 地域に貢献する活動への積極的な参加	②わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%	アンケート(生徒⑩)	20%	50%		
	危機管理意識の向上	危機管理体制の確立	保健・生徒	a. 危機管理に対する校内研修の実施 b. 環境整備の充実 c. 情報モラル教育の推進	⑩救急法の教職員研修は、有益であった。	90%	アンケート(教員⑨)	94%	104%	A	(18)各教員は意欲的に参加しており、緊急時により適切な対応ができるよう今後も継続して取り組みたい。		
					⑪情報モラルの教職員研修は十分行われた。	80%	アンケート(教員⑩)	82%	103%	A	(19)外部講師による全学年対象の情報モラル研修は、実例を踏まえた内容で成果があった。また、個人情報の取り扱いやネット中傷などの犯罪事例についても理解を深めることができた。		
					⑫安全点検や清掃用具の点検・整備が行われ、環境整備が適切に行われた。	90%	アンケート(教員②)	91%	101%	A	(20)保健部と事務部で連携し概ね整備ができた。今後もより迅速に対応していききたい。		